

壇 春燈や一番星に先んじて	壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜	壇 湖の水面に吹かれ草の絮
壇 神兵の夏、ジャングルに飢ゑて死ぬ	壇 爽やかに拾ひし物は持ち主に	壇 毬栗のまだ柔かな青二才
壇 予報たがはず連日の大夕立	壇 手つかずの九月ぞ昼も夜も励め	壇 釘を叩けど螺子を締めれど日短
壇 西日いまビルの中を舐るなる	壇 音はソウ訓はさはやか天高し	壇 文明や燃えぬ懐炉に火傷して
壇 打水を終へしホースをぐるぐると	壇 稻妻のその次を待つ闇の中	壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず
壇 百千の蟬も加はる夏期講座	壇 はああとローマの月を唄ふなり	壇 子猫より十倍老いて炬燵猫
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 仰向けに海に浮べば月丸し	壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な
壇 子子も食つて元気な目高の子	壇 真つ暗な回送電車天の川	壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 満を持して背ナを割りたる蟬の殻	壇 不作とはいへど田を刈る他はなく	壇 白鳥の腸重く着水す
壇 空蟬と博物館の大鎧	壇 我は我十日の菊を卓の上	壇 がつしりと根つ子初日を浴びずとも
壇 もの掛けて古釘折れぬ黴の家	壇 ずんぐりとして藁塚の尖りをる	壇 老い先を照らす如く初日の出
壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上	壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ	

壇 予報たがはず連日の大夕立 壇 真つ暗な回送電車天の川 壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 打水を終へしホースをぐるぐると 壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 窓からの蟬も加へて夏期講座 壇 我こそは十日の菊を卓の上

壇 水音の激しきプール開きかな 壇 ずんぐりとして藁塚の尖りをる

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 空蟬と博物館の大鎧 壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上 壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 爽やかに返還されし遺失物 壇 文明や燃えぬ懐炉に火傷して

壇 手つかずの九月ぞ昼も夜も励め 壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

壇 音はソウ訓はさはやか天高し 壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な

壇 秋雨のこの一雨の尊とけれ 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 仰向けに海に浮べば月丸し 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 予報たがはず連日の大夕立 壇 我こそは十日の菊を愛づる者

壇 窓からの蟬に騒然夏期講座 壇 ずんぐりとして藁塚の尖りをる

壇 水音の激しきプール開きかな 壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 空蟬と博物館の大鎧 壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上 壇 文明や火なし懐炉に火傷して

壇 爽やかに帰つて来る落し物 壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

壇 新鮮な九月ぞ昼も夜も励め 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 音はソウ訓はさはやか天高し 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 秋雨のこの一雨の尊とけれ 壇 老い先を照らすが如く初日の出

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

2024・6・15【俳壇賞2024 B 全20句】選13句

12行3段組14ポ 2024年9月15日 05:27 ^ 1 < 桐10

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

2024・6・22【俳壇賞2024B 全95句】 選0句

壇 頭よくならむ目刺の苦き食ふ

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 風薫るつかまり立ちの時代かな

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 鏡台は燃えつつ火事を映しをる

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 大いなる湖の水面へ草の絮

2024・6・23【俳壇賞2024 B 全110句】 選21句

12行3段組14ポ 2024年9月23日 06:59 へ1 桐10

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな
壇 蠶螂の鳥に食はるることもかな
壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ
壇 毬栗のまだ柔かな青二才
壇 子子も食つて元気な目高の子
壇 大いなる湖の水面へ草の絮
壇 空蟬と博物館の大鎧
壇 釘打てど螺子を締めれど日短
壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ
壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる
壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴
壇 毛皮好きなれど悪人とも言はず
壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上
壇 鏡台は燃えつつ火事を映しをる
壇 爽やかに帰つて来る落し物
壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな
壇 老い先に幸多かれと初日の出
壇 我こそは十日の菊を活ける者
壇 不作とはいへど田を刈る他はなく
壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

2024・6・23【俳壇賞2024 B 全115句】 選21句

12行3段組14ポ 2024年9月23日 13:03 へ1 桐10

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 壇 ずんぐりと糞塚はあり尖りをる

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ 壇 蠟螂の鳥に食はることもかな

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子 壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の大鏡 壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ 壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴 壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 爽やかに帰つて来る落し物 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

2024・6・24【俳壇賞2024 B 全132句】 選26句

12行3段組14ポ 2024年9月24日 21:38 へ1 桐10

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 螻蛄の鳥に食はるることもかな

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 月見から雪見の間を紅葉見て

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の大鏡

壇 読み終へて夜長の本の余韻かな

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 初雪を半時で消す雨の夜

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 純白に踏まれ参道の霜柱

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

2024・6・25【俳壇賞2024 B 全129句】 選句

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな
壇 蠓螂の鳥に食はるることもかな
壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ
壇 毬栗のまだ柔かな青二才
壇 人の子は赤子鴉の子は黒子
壇 月見から雪見に至る紅葉かな
壇 子子も食つて元気な目高の子
壇 湖の方へ吹かるる草の絮
壇 空蟬と博物館の大鏡
壇 釘打てど螺子を締めれど日短
壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ
壇 参道の一步一步や霜柱
壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴
壇 受付に毛皮を預け肉食す
壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上
壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる
壇 爽やかに帰つて来る落し物
壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水
壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな
壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 我こそは十日の菊を活ける者
壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花
壇 不作とはいへど田を刈る他はなく
壇 老い先に幸多かれと初日の出

2024・6・26【俳壇賞2024 B 全135句】 選26句

12行3段組14ポ 2024年9月26日 07:07 へ1 桐10

壇 赤ん坊のやはらかな肉ひな祭

壇 我がこそは十日の菊を活ける者

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 蠓螂の鳥に食はるることもかな

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 月見から雪見に至る紅葉かな

壇 教科書よノートよ梅雨のランドセル

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 参道の一步一步や霜柱

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

2024・6・26【俳壇賞2024 B 全152句】 選28句

12行3段組14ポ 2024年9月26日 16:38 へ1 へ桐10

壇 めらめらと音おそろしき畦火かな

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 もちもちの嬰のほつぺた雛祭

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 不作とはいへど稻刈る他はなく

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 蠮螋の鳥に食はるることもかな

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 拂りて植田日和の眩しけれ

壇 月見から雪見に通ふ紅葉かな

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 道のべに阿波の遍路が買ふトマト

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 参道の一步一步の霜柱

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 野火畔火焚火もなきて年果つる

壇 もちもちの嬰のほつぺた雛祭

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 不作とはいへど稻刈る他はなく

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 蠶螂の鳥に食はるることもかな

壇 撈りて植田日和の眩しけれ

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 無数とは即ち無敵蟻たかる

壇 月見から雪見に通ふ紅葉かな

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 道のべに阿波の遍路がトマト買ふ

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 参道の一步一步の霜柱

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 野火畔火焚火もなきて年果つる

壇 雪解けて色々なもの色々に	壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上	壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭	壇 爽やかに帰つて来る落し物	壇 野火畔火焚火もなきで年果つる
壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ	壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな	壇 老い先に幸多かれと初日の出
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 我こそは十日の菊を活ける者	壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水
壇 人の子は赤子鴉の子は黒子	壇 不作とはいへど稻刈る他はなく	壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花
壇 子子も食つて元気な目高の子	壇 螿螂の鳥に食はるることもかな	
壇 扱れば植田日和に風が吹く	壇 毬栗のまだ柔かな青二才	
壇 無数とは即ち無敵蟻たかる	壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな	
壇 空蟬と博物館の大鏡	壇 湖の方へ吹かるる草の絮	
壇 道のべに阿波の遍路がトマト買ふ	壇 釘打てど螺子を締めれど日短	
壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ	壇 参道の一足ごとの霜柱	
壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴	壇 受付に毛皮を預け肉食す	

2024・6・27【俳壇賞2024 B 全168句】 選30句

12行3段組14ポ 2024年9月27日 22:15 へ1 桐10

壇 雪解けて色々なもの色々に	壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴	壇 受付に毛皮を預け肉食す
壇 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島	壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上	壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭	壇 爽やかに帰つて来る落し物	壇 野火畔火焚火もなきで年果つる
壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ	壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな	壇 老い先に幸多かれと初日の出
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 我こそは十日の菊を活ける者	壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水
壇 人の子は赤子鴉の子は黒子	壇 不作とはいへど稻刈る他はなく	壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花
壇 子子も食つて元気な目高の子	壇 蠓螂の鳥に食はるることもかな	
壇 捗れば植田日和に風が吹く	壇 毬栗のまだ柔かな青二才	
壇 無数とは即ち無敵蟻たかる	壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな	
壇 空蟬と博物館の大鎧	壇 湖の方へ吹かるる草の絮	
壇 道のべに阿波の遍路がトマト買ふ	壇 釘打てど螺子を締めれど日短	
壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ	壇 参道の一足ごとの霜柱	

2024・6・28【俳壇賞2024 B 全173句】 選30句

12行3段組14ポ 2024年9月28日 13:16 ^1 v桐10

壇 雪解けて色々なもの色に出づ	壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ	壇 受付に毛皮を預け肉食す
壇 永き日を廻る鉄道模型かな	壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上	壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島	壇 爽やかに帰つて来る落し物	壇 野火畔火焚火もなきで年果つる
壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭	壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな	壇 老い先に幸多かれと初日の出
壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ	壇 我こそは十日の菊を活ける者	壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 不作とはいへど稻刈る他はなく	壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花
壇 人の子は赤子鴉の子は黒子	壇 蠮螋の鳥に食はるることもかな	
壇 子子も食つて元気な目高の子	壇 毬栗のまだ柔かな青二才	
壇 捗れば植田日和に風が吹く	壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな	
壇 無数とは即ち無敵蟻たかる	壇 湖の方へ吹かるる草の絮	
壇 空蟬と博物館の大鎧	壇 釘打てど螺子を締めれど日短	
壇 道のべに阿波の遍路がトマト食ふ	壇 参道の一足ごとの霜柱	

壇 立春の湯気のご飯とおみそ汁	壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ	壇 受付に毛皮を預け肉食す
壇 雪解けて色々な色あらはるる	壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上	壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 永き日を廻る鉄道模型かな	壇 爽やかに帰つて来る落し物	壇 野火畔火焚火もなきで年果つる
壇 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島	壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな	壇 古い先に幸多かれと初日の出
壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭	壇 我こそは十日の菊を活ける者	壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水
壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ	壇 不作とはいへど稻刈る他はなく	壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花
壇 人の子は赤子鴉の子は黒子	壇 蠮螋の鳥に食はるることもかな	
壇 子子も食つて元気な目高の子	壇 毬栗のまだ柔かな青二才	
壇 捗れば田植日和に風が吹く	壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな	
壇 無数とは即ち無敵蟻たかる	壇 湖の方へ吹かるる草の絮	
壇 空蟬と博物館の大鎧	壇 釘打てど螺子を締めれど日短	
壇 道のべに阿波の遍路がトマト食ふ	壇 参道の一足ごとの霜柱	

壇 立春の湯気立つご飯おみそ汁	壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ	壇 受付に毛皮を預け肉食す
壇 雪解けて色々な色あらはるる	壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上	壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり
壇 永き日を廻る鉄道模型かな	壇 爽やかに帰つて来る落し物	壇 野火畔火焚火もなきで年果つる
壇 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島	壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな	壇 古い先に幸多かれと初日の出
壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭	壇 我こそは十日の菊を活ける者	壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水
壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ	壇 不作とはいへど稻刈る他はなく	壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花
壇 人の子は赤子鴉の子は黒子	壇 蠟螂の鳥に食はるることもかな	
壇 子子も食つて元気な目高の子	壇 毬栗のまだ柔かな青二才	
壇 捗れば田植日和に蝶が舞ふ	壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな	
壇 無数とは即ち無敵蟻たかる	壇 湖の方へ吹かるる草の絮	
壇 空蟬と博物館の大鎧	壇 釘打てど螺子を締めれど日短	
壇 道のべに阿波の遍路がトマト食ふ	壇 参道の一足ごとの霜柱	